

安全データシート

作成日: 2011年06月08日

改訂日: 2025年05月01日

1. 化学品(製品)及び会社情報

製品名: 流動パラフィン350#

製品コード:

化学品物質等の名称:

流動パラフィン

会社名:

山桂産業株式会社

住所:

大阪府大阪市中央区平野町1丁目8番3号

担当部署:

電話番号: 06-6231-3277

FAX番号: 06-6201-3187

緊急時の電話番号: 06-6231-3277 (土日祝を除く 9:00~17:00)

メールアドレス: info@yamakei.jp

推奨用途: 化粧品、合成樹脂滑剤、繊維油剤、潤滑油、紙含浸油、可塑剤、離形剤、顔料分散剤

使用上の制限(使用上の注意)

情報なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性 分類基準に該当しない

健康有害性 分類基準に該当しない

環境有害性 分類基準に該当しない

GHS ラベル要素 なし

3. 組成、成分情報

単一成分・混合物の区別

単一成分

化学名又は一般名

流動パラフィン <Liquid paraffin>

慣用名又は別名

白色鉱油(石油) <White mineral oil (petroleum)>、
ミネラルオイル <Mineral oil>、ホワイトオイル <White oil>、
White mineral oil、Paraffinum liquidum

化学物質を特定できる一般的な番号

[CAS 番号] 8042-47-5

成分及び濃度又は濃度範囲

100 重量%

官報公示整理番号(化審法・安衛法)

(9)-1692 (石油留分又は残油の水素化精製又は分解により得られる
潤滑油基油)

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石けん(鹹)で洗うこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していく
容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること

飲み込んだ場合

口の中が汚染されている場合には、水で充分にうがいをすること。無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の
最も重要な徴候症状

飲むと下痢、嘔吐するおそれがある。皮膚に触れる、あるいは眼に入ると炎症を起こすおそれがある。ミストを吸入すると気分が悪くなるおそれがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

使ってはならない消火剤

火災時の特有の危険有害性

特有の消火方法

消防活動を行う者の特別な保護具及び
予防措置

粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、砂が有効である。

消火に棒状放水を用いてはならない。

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある
激しく加熱すると燃焼する

火災時に炭素酸化物（一酸化炭素、二酸化炭素）、不完全燃焼による煙霧
および刺激性の蒸気を発生するおそれがある。

消火作業は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる
関係者以外は、安全な場所に退去させる

消火作業では適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する
必要に応じて自給式呼吸器および完全保護服を着用すること

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 及び

緊急時措置

環境に対する注意事項

回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・
機材

作業の際には適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する
関係者以外の立入りを禁止する

屋内の場合は立入る前から処理が終わるまで十分に換気を行う

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起さないように 注意
する

少量の場合は、土砂、ウエス等に吸収させて空容器に回収し、その後完全
にウエス等で拭き取る

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから流
出物をすくい取るか、または適当な吸収剤を使用して回収する

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除く。関係先に通報し応援を求める

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所排気・全体換気

発散したミストを吸い込まないようにする
適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する

取り扱いは換気のよい場所で行い、できるだけ局所排気または全体換気装
置を使用する

注意事項

みだりにミストが発生しないように取り扱う。
適切な保護具を着用しない場合、40°Cを超える温度で取り扱わないこと

取扱い後は手をよく洗うこと

安全取扱注意事項

保管

技術的対策

混触危険物質

消防法の規定に従うこと

他の容器に移し替えないこと

安全な保管条件

強酸化剤

直射日光を避け、乾燥した換気の良い冷暗所にて保管する

安全な容器包装材料

気密式の破損しないものに入れること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度(厚生労働省濃度基準値)

設定なし

日本産業衛生学会(2024 年版)

3mg/m³ (鉛油ミストとして)

ACGIH(米国産業衛生専門家会議)

TLV-TWA 5.0 mg/m³ (鉛油ミストとして)

設備対策	作業場にはできるだけ全体換気装置、局所排気装置を設置すること
保護具	
呼吸用保護具	有機蒸気フィルター付き呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	ネオプレン製、ニトリル製またはポリビニルアルコール (PVA) 製等の耐薬品保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	化学スプラッシュゴーグルおよびフルフェイスシールドを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護服(長袖作業衣等)を着用すること。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	澄明の油液
色	無色
臭い	無臭
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	>230 °C
可燃性	情報なし
爆発下限界及び	情報なし
爆発上限界／可燃限界	
引火点	≥200 °C
自然発火点	325~355 °C
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	>20.5 mm ² /s (40 °C)
粘性率	情報なし
溶解度	水、エタノール (95): ほとんど溶けない ジエチルエーテル: 溶けやすい エタノール (99.5): 極めて溶けにくい
n-オクタノール／水分配係数	>6
蒸気圧	<0.1 kPa (20°C)
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	非該当

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	通常の取り扱い条件においては安定である
危険有害反応可能性	通常の取り扱い条件において危険有害反応の可能性はない
避けるべき条件	直射日光、高熱、火炎・火花等の着火源を避ける
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	熱分解または燃焼により炭素酸化物(一酸化炭素、二酸化炭素)、不完全燃焼による煙霧および刺激性の蒸気を発生するおそれがある

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラットのLD50値 > 5000 mg/kg のデータに基づき「区分に該当しない」とする

経皮	ウサギのLD50値>2000 mg/kgのデータに基づき「区分に該当しない」とする
吸入	ラットの4時間LC50値>5 mg/Lのデータに基づき「区分に該当しない」とする
皮膚腐食性／刺激性	加熱製品は火傷を引き起こす可能性があるが、皮膚刺激性なしとされているため「区分に該当しない」とする。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	加熱製品は火傷を引き起こす可能性があるが、眼刺激性なしとされているため「区分に該当しない」とする。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:情報なし 皮膚感作性:モルモットの皮膚接触によるばく露で皮膚感作性物質でないため「区分に該当しない」とする。
生殖細胞変異原性	in vitroで生殖細胞変異原性はないと考えられるが、in vivoのデータがなく十分なデータがないため「分類できない」とする。
発がん性	本製品構成組成中0.1%を超える物質で、IARC、NTPおよびOSHAの発がん物質リストに記載されているものはない。IP346法に基づくDMSO抽出物量が3%未満の高度精製基油のため発がん性があるとは考えられない。 GHS分類:十分なデータがないため「分類できない」とする。
生殖毒性	生殖器系への毒性および催奇形性はないと考えられるが、十分なデータがないため「分類できない」とする。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	単回ばく露試験で全身毒性の証拠を示さないが、十分なデータがないため「分類できない」とする
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	反復ばく露試験で全身毒性の証拠を示さないが、十分なデータがないため「分類できない」とする。
誤えん有害性	誤えん有害性があるとは考えられないが、十分なデータがないため「分類できない」とする。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)

魚類	種不明の96時間LC ₅₀ 値>100 mg/L
甲殻類	ミジンコ (Daphnia (water flea))の48時間EC ₅₀ 値>100 mg/L
藻類	情報なし
GHS分類 短期(急性)	上記のデータに基づき「区分に該当しない」とする
水生環境有害性 長期(慢性)	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

残余廃棄物は、関連法規および地方自治体の基準に従って廃棄すること。
廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。この場合、危険性、有害性を十分告知すること。

汚染容器及び包装

容器または被包材の廃棄にあたっては、残余廃棄物と同様に廃棄すること。容器または被包材を再利用する場合、洗浄に伴い発生した廃液等は残余廃棄物と同様に廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
国際規制	
海上規制情報	非該当
航空規制情報	非該当
国内規制	
陸上輸送	消防法の規定に従う
海上輸送	非該当
航空輸送	非該当
特別の安全対策	漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行なうこと

15. 適用法令

労働安全衛生法(表示・通知対象物質)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	危険物 第四類第四石油類(非水溶性液体) 危険等級
化審法	非該当
水質汚濁防止法	排水基準:ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉛油類含有量) 5mg/L(許容濃度)

16. その他の情報

参考文献: 本製品の製造会社による安全データシート

記載内容については、現時点での資料や情報に基づいて作成されたものであり、記載のデータや評価に関しては情報の完全さ、正確さを保証するものではないことをご了承ください。

すべての化学製品には、未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。

ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定いただきますようお願いします。

尚、製品の詳しい説明、またご不明の点などありましたら、弊社担当者までご連絡ください。